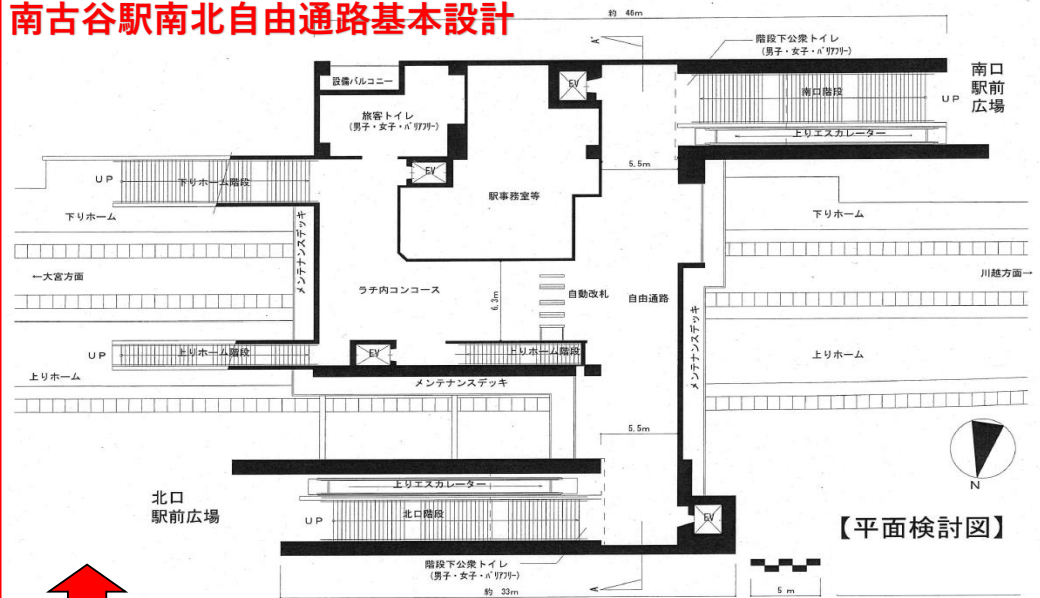


南古谷駅南北自由通路基本設計



【平面検討図】

地域の皆様の意見を伺いながら南古谷駅南北自由通路が形になってきました。まだ変更の可能性はありますが、今後実施設計・工事へと進んでいきます。

皆様の声がカタチになりました！

岸町二丁目地内城南中学校坂の市有地部分の拡幅を要望しました。



岸町三丁目地内市道が傷んで凸凹になっていたので補修を要望しました



栗原みつはる プロフィール

昭和46年6月9日川越市岸町生まれ(50歳)、南古谷並木在住、8歳と5歳の娘の父

ひつじ幼稚園卒園、仙波小学校・砂中学校卒業

2017年1月 川越市議会議員に初当選

1990年3月 城北埼玉高等学校卒業

2017年9月 MKコンシスト(株)設立 取締役

1994年3月 立教大学経済学部経営学科卒業

デイサービスリーディング岸町・南古谷運営

1994年4月 カナダへ2年間語学留学

居宅介護支援事業所 リーディング運営

2001年5月 ワタミフードサービス(株)入社

2019年4月 川越市議会議員選挙当選(2期目)

営業部長まで務め経営・サービスを学ぶ

文化教育常任委員会委員長、土地開発公社理事

2012年9月 ワタミの介護(株)へ転職

医療問題協議会委員、社会福祉審議会委員

有料老人ホーム エリアマネジャー

所属団体：川越商業経営研究会、川越葵ライオンズクラブ

2014年12月 SKYケアサービス(株)設立 取締役

川越立教会、川越市倫理法人会、川越商工会議所青年部

2015年4月 川越市議会議員選挙に挑戦し、次点惜敗

川越法人会、岸町囃子連、南古谷歌謡サークル、KMC

ご意見・ご感想・皆様の声をお聞かせください！

南古谷事務所 〒350-0023 川越市並木77-8

携帯：090-6509-2419、電話：049-235-8425

岸町事務所 〒350-1131 川越市岸町1-25-18

電話：049-247-7701

2022年7月発行

川越市議会議員(自由民主党川越市議団)

栗原みつはる議会報告

Vol.21～「介護・福祉の未来」を創る～



【一般質問】内水被害の軽減

近年は梅雨時期から秋にかけて毎年のように全国各地で観測史上最大の降雨量をもたらすような前線の発達や停滞、線状降水帯の発生、台風などによる集中豪雨によって大水害が発生し、多くの尊い命が犠牲となっております。

下図は近年の大規模水害ですが、毎年のようにどこかで発生しています。



令和3年7月	東海・関東地方豪雨で熱海市で大規模な土石流が発生
令和2年7月	線状降水帯による九州豪雨で球磨川氾濫での大水害の発生
令和元年10月	東日本台風で越辺川の堤防決壊など市内に甚大な被害が発生
平成30年7月	271人以上が犠牲になった西日本豪雨
平成29年10月	台風21号による寺尾地区での江川の氾濫・大規模内水被害

昔は水害といえば河川の氾濫によるものが中心であり、本市を取り囲む河川でも多くの河川改修が実施されてきておりますが、近年は市街化が進むに連れて雨水の排水先がなくなることによる内水被害も増加しています。

そして床上・床下浸水といった直接的な被害でなくとも、道路冠水によってあと少しで直接的被害に及ぶような内水被害は市内各地で多く発生しているものと感じております。

私自身も大雨が降ると家の前が水浸しになって家から出られないから何とかしてほしいといった要望をこれまで何度も受けてきたことから内水被害軽減のための対策について質問を通して提言を行いました。

Q：大雨時における市内の道路冠水想定箇所及び内水被害想定箇所及びこれまでの対策の実施状況は？

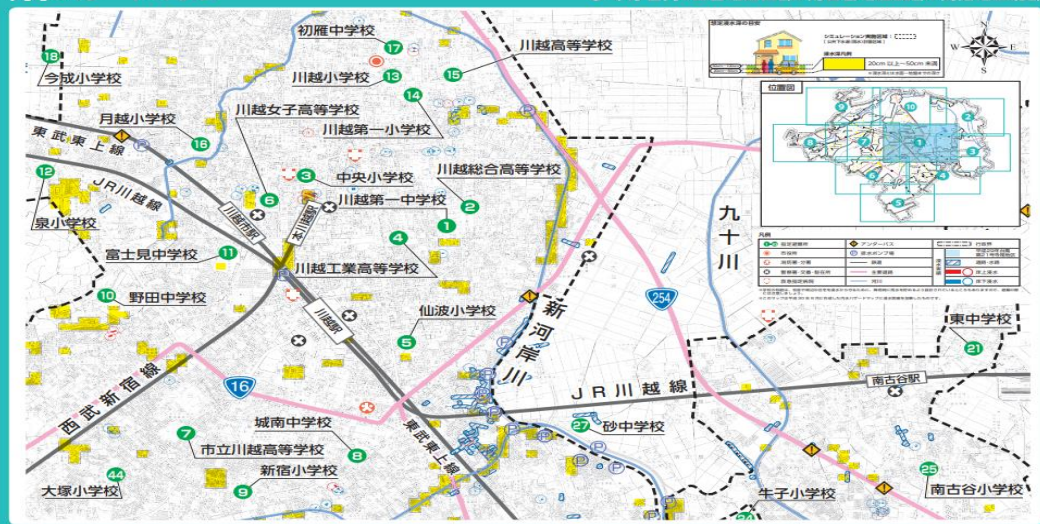
A：令和元年東日本台風の際には、道路周辺も浸水し通行止めとなるような場所が市内各所で40カ所以上発生しており、これらの場所では、同規模の降雨により道路冠水の発生が想定され、内水被害想定箇所については市内全戸配布している「水害ハザードマップ」の冊子におきまして内水ハザードマップを掲載しており、過去最大規模の時

間最大雨量72.5mmの集中豪雨を想定雨量としてシュミレーションを行い、浸水の可能性がある場所及び床上・床下浸水実績個所を図示しております。

これまでに実施した対策では、周辺に比べて低く冠水しやすいアンダーパス等への冠水対策や下水道への負荷を軽減する雨水貯留施設の整備を実施してまいりました。

内水ハザードマップ

① 本庁管内、古谷地区西部、南古谷地区西部、高階地区北部



詳しくは配布されております内水ハザードマップをご覧ください。

道路冠水、内水被害の軽減に対して大規模な対策を打つことは莫大な費用と時間を要する一方で、時間をかけずに、低コストで一時的に内水被害を軽減できる対策の一つとして土のうの活用が挙げられ、市内には自分が必要なタイミングで、必要な分だけ土のうを確保できる土のうステーションが設置されております。

現在市内の土のうステーションは、本庁地区に4カ所、高階地区に6カ所、福原地区に3カ所、山田地区に1カ所の計14カ所で16基設置されており、土のうステーションが隣にない地域や様々な理由で取りに行けない方などは、市ホームページで案内している連絡先へ電話等により土のうを要請することで、必要な場所へ職員が直接届けるといこと、今後の増設計画はないということが質問を通して明らかになりました。

【ここがポイント①】

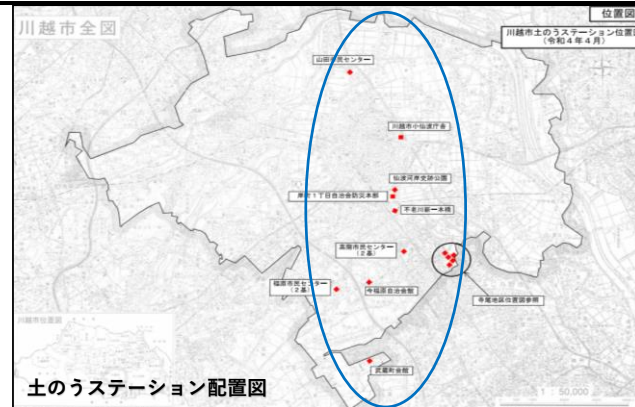
道路冠水想定箇所及び内水被害想定箇所ともに市内全域で発生する可能性があり、様々な対策を講じてきましたが、近年の異常な降雨量によって、特に市街地で大規模な道路冠水が発生すれば家屋への浸水被害にまで及ぶこととなります。

土のうステーションは浸水が想定される地域に平成29年より順次増設してきましたが、その多くは寺尾、岸町周辺地区に集中し、北は山田市民センター、南はふじみ野市境に近い武蔵町会館と市内南北にわたって設置されており、東西の地域には現在設置されておりません。

Q：令和元年東日本台風の際に直接土のうを届けた件数の実績は？

A：台風上陸前の10月8日から通過翌日の13日までの6日間で市内全域で約200件の要請を受け約3500袋を直接配布しました。

また、同期間に各土のうステーションにも約2300袋を補充しております。



Q：大雨時に道路冠水だけでなく家屋浸水までもが想定される地域では優先的に対策事業を実施すべきと考えるが、市の考えは？

A：「川越市雨水管理総合計画」において市内の寺尾、岸町地区など4地区を重点対策地区と位置づけ、まずは寺尾地区の雨水貯留槽施設等の整備を実施しております。また今年度からは岸町地区における浸水被害軽減対策を検討してまいります。

【ここがポイント②】

今年度からは重点対策地区として長年水害に悩まされてきた岸町地区への浸水被害軽減対策を検討していくことについては大きく評価するとともに、雨水貯留施設や大規模な排水管の設置など大きく被害を軽減できる対策を強く要望しました。

そして台風の最中市内全域で浸水被害が発生し、約200カ所へ直接土のうを届けたことから、市内各所にさらに多くの土のうステーションがあれば職員の負担も軽減でき、市民にとっても浸水が迫る中で「まだ持ってきてくれないのか」と不安を抱えながら待つ必要もなくなるのではないのでしょうか。

にもかかわらず土のうステーションの設置場所は、市内中心部から南北地域に設置場所が偏っているのが現状です。

まずは市内各所の市民センターや自治会館などに増設していくということであれば設置場所の課題や市民にとっての分かり易さという観点からも適当だと考えられます。

ここで提言！計画的に土のうステーションの増設を！

Q：道路冠水が想定され、浸水被害が想定される地域にはさらに計画的に土のうステーションを増設すべきと考えるが、市の考えは？

A：土のうステーションは、地域の皆様が自ら浸水対応を行う上で利便性が高く、浸水被害の軽減に資する施設と認識しております。

このため、現在設置されていない地域でも、想定される浸水の状況や土のうの要請実績などを参考に、地元自治会とも調整しながら増設してまいりたいと考えます。